



思・誠・愛

No. 03

令和8年6月10日

中信大会壮行会 [5月28日(木)]

全校



中信大会に出場する選手を応援する壮行会が行われました。事前の応援練習の成果もあり、本番では素晴らしい応援の姿が見られました。ステージ上の選手も一緒になって応援する全員参加型の壮行会となり、鉢盛中伝統の「本気の応援」が体育館に響き渡りました。選手の皆さんの健闘を祈ります。



校長先生の話より (要約)

いよいよ各部活動の大会が始まります。スピードスケートの小平奈緒さんは「準備さえできれば、緊張はエネルギーにかえられる」と言っています。プレッシャーを感じるの、これまで努力して「良いところまで来ている証拠」です。本番ではその重圧を自信に変え、仲間や家族の支えを胸に目標達成を目指してください。素晴らしい壮行会を創り上げてくれた全校生徒の皆さんに感謝するとともに、鉢盛中丸となって皆さんの健闘を祈っています！



生徒の感想



今日は壮行会がありました。すごく緊張したけれど、ステージの上に乗って、全校でお互いを応援し合って、私は頑張ろうという気持ちになれたし、ほかの人たちのことも大きな声で応援できて、頑張りたいという気持ちになりました。

中信大会、頑張ってきます。



前期人権月間に際し、校長講話を行いました。ネット上の誹謗中傷「デジタルタトゥー」の恐ろしさを通じ、言葉が人の命や尊厳を傷つける現実について考えました。大切なのは、「書く前に立ち止まること」と「相手を思いやる心」です。スマートフォンという便利な道具を、誰かの不幸のためではなく「幸せのため」に使いこなせるよう、日頃から自問自答できる人を目指していきましょう。



校長講話: デジタルタトゥーと命の尊厳

ネット社会で、命と人権を守るためにできること

前期人権月間
5月20日～6月26日

1 背景: 教え子の死とネット上の誹謗中傷

16年前、当時29歳の教え子が交通事故(引き逃げ)で亡くなった。

事件を調べると、ネット掲示板に心ない書き込みがあった。

実際の書き込み(例)

- 「車って便利だね。人殺しても国内の半分の懲役で済むんだ。」
- 「夏とはいけ(夜道)に出る自分の身は自分で守るしかない。」
- 「29歳の無職と67歳の無職のじい、どっちが死んでも世の中には何の影響もない。」

なぜ、何の罪もない人がここまで非難され、命が軽く扱われるのか。

2 デジタルタトゥーの脅威

16年後の今も、当時の誹謗中傷記事がそのまま残っていた。

一度ネットに出た情報は、消すことがとても難しい。

ネット上の記録は「デジタルタトゥー」となり、人を傷つけ続ける。

ネットに書いたことは、一生消えない傷になる。

3 ネット上の加害心理

- 匿名性による無責任**
「バレない」という思い込みで、後先を考えない。
- 感情の抑制不能**
その場の感情で、つい書き込んでしまう。
- 他者への無関心**
相手の気持ちを考えず、痛みに気づかない。
- 承認欲求と共感の渴望**
注目されたい、共感してほしいという思い。
- ストレス解消**
不満をぶつけたり、攻撃して優越感を得る。

データで見る後悔の実態
高校生の約5割、大学生や20～30代の約半数が、ネットの書き込みを「後悔した」経験がある。

4 理想的な情報社会の歩き方: 生徒たちの決意

一時停止の実行	相手への想像力	現実との一貫性	責任感の保持	ブレーキの習得
書き込む前に、一度立ち止まり、落ち着く。	画面の向こうに人がいることを忘れない。	対面で言えないとは、ネット上でも書かない。	自分の発言が、誰かを傷つけ、命を奪う可能性もある。ルールを守る。	むかついても、自分の中でブレーキをかける。

一人ひとりの意識と行動が、やさしく安全なネット社会をつくります。

5 結論: 幸福と命を守るための技術活用

1 「命」を守るための点検

言葉の暴力で、心が傷つき、死んでしまうこともある。自分の発信が、誰かの命を脅かしていないか、常に点検する。

2 「幸せ」のための活用

スマホやネットは、人々を幸せにするための「未来へのパスポート」。自分や他者、社会を幸せにするために使う。

情報機器を使うときは、「この使い方は誰かを不幸にしているか、自分を不幸にしているか」と、自問自答することが大切です。

